

ガーデンシティふかや推進室 [ふかや緑の王国・深谷市榎引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

ガーデニング教室参加者募集!

多肉植物の寄せ植え教室

さまざまな色、形のかわいらしい多肉植物を使って、オリジナルの寄せ植えを作りましょう。

とき 10月29日(水)午前10時~11時30分

ところ ふかや緑の王国 定員 20人(抽選) 参加料 2,500円

講師 La*pensee(グリーンアドバイザー)

申し込み 10月1日(水)午前9時から6日(月)午後5時までに下記QRコード

からアクセスして電子申請

※1回の申し込みで2人まで

※電子申請ができない場合は電話で申し込みも可



作品のイメージ▶



コンテスト作品募集中!.....

申し込み 各応募締切日までにふかや緑の王国へ郵送または直接提出

第17回バードハウスコンテスト2025

遊び心を大切に、鳥の視点で都市の環境を考えたコンテストです。

応募期限 9月30日(火)必着

※最優秀賞(クオカード1万円分)をはじめ、優秀賞(同5千円分)、特別賞(同2千円分)あり

▲第16回バードハウスコンテスト「人間審査の部」最優秀賞



第16回ふかや緑の王国写真コンテスト

テーマ『ふかや緑の王国の魅力』

応募期限 令和8年1月6日(火)必着



第15回写真コンテストの受賞作品▶



ボランティア募集中!皆さんも一緒に活動しませんか!?

~花と緑で広がるまちづくり~

月に1回、週に1回、自分の都合でほんの数時間だけでも参加してみませんか!

市民ガーデニングボランティア



JR深谷駅北口ステーションガーデン、深谷駅通り、国道17号などの花壇を管理しています。また、「ふかや花フェスタ」の会場の装飾やPRブース運営も行っています。皆さんと楽しく花壇を整備して、深谷をきれいに彩りませんか。



深谷アダプトプログラム



「アダプト」とは、英語で養子縁組をするという意味で、深谷アダプトプログラムでは、公園や道路、緑地などの公共空間を市民、学校、各種団体の皆さんが里親となって管理しています。オレンジの看板が目印です。

興味のあるかたは、遠慮なくご相談ください。



ふかや緑の王国ボランティア



ふかや緑の王国は「市民がつくり 市民が守り育てる 市民の森」。市民との協働作業で成長する王国で皆さんと楽しく活動してみませんか? 四季折々の催しも、ボランティアの力で開催しています。



『東京2025デフリンピック』が開催されます!

障害福祉課 ☎571-1011・☎574-6667

きこえない・きこえにくいアスリートの国際スポーツ大会『東京2025デフリンピック』が11月に日本で初めて開催されます。今年100周年の節目の大会で、開催期間は11月15日(土)~26日(水)までの12日間、東京都を中心に、福島県や静岡県を競技会場として21競技が繰り広げられます。みんなで『東京2025デフリンピック』を応援しましょう!

『デフリンピック』とは?

デフリンピック(Deaflympics)とは、デフ+オリンピックのこと。デフ(Deaf)とは英語で『耳がきこえない』という意味で、デフリンピックは、国際的な『きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック』です。

デフリンピックは国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)が主催し、オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会をそれぞれ開催しています。デフリンピックの特徴として、大会の運営は、きこえない当事者団体が中心であることや、国際手話が大会のコミュニケーション手段として使われることが挙げられます。

どんな競技があるの?

デフリンピックの競技数は、陸上、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレーボール、ボウリング、自転車(ロード・マウンテンバイク)、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、レスリング(フリースタイル・グレコローマン)の21競技です。



『論語と算盤』は、米一の代名詞として知られ、大実業家の哲学書としてビジネススマンに人気です。近年はチーム経営を学ぶためにスポーツにも活用されており、大リーグの大谷翔平選手が、北海道日本ハムファイターズ時代に栗山英樹監督から薦められた『論語と算盤』を愛読書としていたことから、この本は、現代の高校野球選手たちにも親しまれています。

『論語と算盤』で、あなたも心に響くことのできるかもしれません。



▲米沢栄一アンドロイド

『論語と算盤』=米沢栄一



米沢栄一記念館では、米沢栄一アンドロイドが、『論語と算盤』の講義をする姿を見学できます。

『道徳経済合一説』は、『論語』を人生の指針としていた米一が説いたものです。それを分かりやすく『論語と算盤』と表現し、道徳心と経済活動は表裏一体であり、公共の利益(公益)のため、みんなが豊かになるために行動することが大切であると考え、自らも行動していました。

そして、1916(大正5)年には米沢栄一『論語と算盤』が出版されます。講演会の講話や雑誌掲載文などの著述を編集した訓話集で、『論語と算盤』の説